

そよかぜ診療所での研修を終えて

神戸大学医学部附属病院 初期研修医

松本 梨香

コートがいらぬ陽気かと思えば翌週には雪がちらつくような、気温の変化が大きかった12月に研修をさせていただきました。研修医1人ということで緊張して来ましたが、先生方をはじめとしてスタッフの皆さんが暖かく迎えてくださり、恵まれた環境で研修をすることができました。

私は今回の研修にあたり、先輩医師に教えていただいた2つのことを目標にしました。1つ目は「なるべく色々な場所の、色々な職種・立場の人が、どのような思いで動いているか知ること。」2つ目は「その地域の文化や生活を知ること地域医療」です。

1つ目の「なるべく色々な場所の、色々な職種・立場の人が、どのような思いで動いているか知ること。」は保健所の先生から大切だと言われました。私は将来、公衆衛生の分野に進みたいと考えており、診療所、在宅医療、訪問看護など多岐にわたる側面を学べると思いそよかぜ診療所を選択しました。1ヶ月の研修を終えて、思っていた以上に色々なことを学ぶことができ、充実した研修ができました。診療所では診察や処置だけでなく、経営に関することや保険のことも考えるきっかけをいただきました。また、訪問診療では、疾患だけでなく生活のことも考えて方針を決めており、病院から退院する際にもインスリン注射は可能か、内服はできるのかなどを考える大切さを知りました。そして何より感動したのが、訪問看護や訪問リハビリまで同じ診療所のスタッフが行うことで、全人的医療がなされていると感じたことです。スタッフの連携が密であるから、看護の視点、リハビリの視点からも必要なサービスやケアを考えることができ、またご家族との信頼関係も厚く、介護者の支えにもなっている感じました。

2つ目の「その地域の文化や生活を知ること地域医療」は学生時代に地域医療の先生に教わったことです。この1ヶ月で、朝来市およびその周辺をできるだけ色々訪れました。粟鹿神社、神子畑選鉱場跡、わさビーフの工場、夜久野うるしの館、酒蔵、本屋などなど…。野生のこうのとりも6羽見ることができました。患者さんにおすすめいただいた場所もあります。学生時代は、遊ぶための言い訳に丁度いい言葉くらいに思っていたのですが、遊ぶ中で気づきもありました。神戸と違い坂が少なく自転車や徒歩でもとても過ごしやすいく、市役所や郵便局など生活の場所、バスなどの交通事情、移住してくる人も多いこと、そして何より、朝来の暖かい人柄。診療所の研修だけでは知ることができなかったことがありました。

1ヶ月間でしたが、朝来が好きになりました。研修を暖かく受け入れてくださったそよかぜの皆様、患者さんとそのご家族の方々、本当にありがとうございました。